

コロナ禍における『北大生の生活』

—第57回学生生活実態調査から—

2022年4月23日
北海道大学生生活協同組合
専務補佐（常務理事） 鏡 秀隆

北海道大学生生活協同組合の概要

・2022年に創立75周年を迎えます。

・19年度の総供給高が約41億4,300万円でしたが21年度は約28億3,900万円と32%の大幅な減収となりました。累積の損失金も▲2億3,400万円になっています。非常に厳しい経営状況です。

・正規職員数は19年度末に47名であったのが、22年2月末で30名まで減少しています。（希望退職4名、コープさっぽろへの転籍3名、その後、諸事情での退職が続いています）急激な職員の減少で、兼務が増加しています。

・コロナ禍前の18年度から赤字に転落しており、経営再建の矢先にコロナ禍での急激な事業規模の縮小局面に入りました。

・旅行事業で3億2,800万円が3,700万円まで減少したことより、食堂事業で6億9,400万円の供給を失い、粗利で50%を失ったことが大きく損益に影響しています。

・コロナ禍で供給が落ちなかったのは、教科書販売でした。そのため、書籍部門全体では、ほとんど供給高が落ちませんでした。皮肉なことに、サークル等のコミュニティーへの所属が遅くなったため、先輩から教科書を譲り受ける機会がなかったことが要因と思われます。

名称	北海道大学生生活協同組合 (略称：北大生協)
創立	昭和22年6月13日
出資金総額	3億9,100万円
組合員数	25,636名
総供給高	28億3.900万円
1年間の利用高 (一人当たり)	110,700円
学生総合共済 給付総額	6,857万円

役員数	理事21名 (学生11名) 監事 5名 (学生 3名)
代表理事	坂爪浩史 (理事長、農学研究院教授)
代表理事	小助川 誠 (専務理事、生協職員)
正規職員数	30名
非正規職員数	242名
事業分野	食堂、購買、書籍、旅行、印刷、就職支援、部屋紹介、共済・保険
子会社	(株) エルムプロジェクト 北大グッズ企画制作販売
子会社	キャンパスライフサポート (株) 損害保険代理店など
主要取引先	大学生協事業連合 (96%)

コロナ禍の学生支援の取り組み

ほっかいどう若者応援プロジェクト

新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、学生は今、「暮らし」「学び」「コミュニティ」の3つの危機に直面しています。中でも、アルバイトで修学費用や生活費を工面している学生は、大幅な収入の減少により授業料等の支払いに窮し、退学を考えている学生も少なくありません。さらに、就職面でも、説明会や面接のキャンセル、内定が取れないといった悲痛な声が上がっており、多くの学生が進路・就職への不安を抱えています。コロナ禍においても修学が継続できるよう、文科省や学生支援機構、各大学や地方自治体による支援策が講じられています。

20年12月、連合北海道から北海道生協連へ「北海道で学び暮らす学生を支援し、若者の地元定着や道内企業の人材確保等の課題解決、さらには地域の活性化に繋げ、人口減少時代における持続可能な地域社会の構築に寄与していきたい」という意向が伝えられました。そこで、連合北海道、北海道労働者福祉協議会、北海道生活協同組合連合会および大学生協事業連合北海道地区が中心となり、学生支援のプラットフォームとして「ほっかいどう若者応援プロジェクト」という任意団体を立ち上げ、具体的な支援事業を展開していくこととしました。

2021年2月9日、北大札幌キャンパスで1,000名へ食糧支援を実施しました。事前受付では、告知も十分広がる前に約9時間で予定枠が埋まるほどの盛況で、非常に驚かされました。その後、6月に函館キャンパスで同様に企画を行いました。全道で、大学生協のない大学も含めて、のべ14,200名に食糧支援を行いました。21年12月に、寄付の受付を含めて当該事業を終了しました。

北海道大学や同窓会などの支援

北海道大学は、「フロンティア基金」を活用しながら、6月と11月に食糧支援・生活用品支援を行っています。北大生協は、入札で商品手配と受付配付業務を受託して執行しています。

また、医学部保健学科・医療技術短期大学部同窓会から113名に3,000円の生協電子マネーを配付しました。その他にも、各学部の同窓会で学生支援をされているようです。



第57回 学生生活実態調査から

調査概要

調査時期：2021年10月～11月

回収数：全国の国公立・私立の学部学生

30大学 10,813名

(北大生協 1,000名中396名の回答数)

調査方法：ランダムサンプリング、郵送で調査依頼してWEBフォームから回答

学生生活実態調査とは

大学生協の「学生生活実態調査」は、毎年行われています。学生生活がどのように変化しているのか、経年で分析することができます。全国大学生協連が、3月初旬に全国版のプレスリリースを行っています。

今回のご報告では、北海道大学での調査結果をご報告します。
学部別・学年別共に平均的に回答が得られています。

学部別				
	21全国	21実数	21構成比	20構成比
文科系	51.5	108	27.3	27.3
理工系	35.1	198	50.0	53.6
医歯薬系	13.4	90	22.7	19.1
総計	100.0	396	100.0	100.0

学年別				
	21全国	21実数	21構成比	20構成比
1年	26.1	103	26.0	27.5
2年	26.1	89	22.5	23.5
3年	22.5	85	21.5	20.0
4年以上	25.3	119	30.1	29.0
総計	100.0	396	100.0	100.0

住居形態別				
	21全国	21実数	21構成比	20構成比
自宅生(自宅・実家暮らし)	51.4	113	28.5	1.1
自宅外生(寮生 + 下宿生)	48.6	283	71.5	98.9

第57回 学生生活実態調査から

報告概要

1. 学生生活の充実度は前年から回復しているが、コロナ禍前には戻っていない。特に2年生が低い数値で、「あきらめた」という声もあります。
2. オンライン授業と対面授業が同じ日にあることに苦労している学生が多いようです。
3. サークル加入について1年生の加入率は回復しているが、上級生は「いまさら新人では入りにくい」という声も聞かれる。
4. 朝食摂取率は明らかに減少、生活習慣への影響が伺えるようです。

(1) 大学充実度

1. 学生生活の充実度は前年から回復しているが、コロナ禍前には戻っていない。特に2年生が低い数値で、「あきらめた」という声もあります。
2. オンライン授業と対面授業が同じ日にあることに苦労している学生が多いようです。
3. サークル加入について1年生の加入率は回復しているが、上級生は「いまさら新人では入りにくい」という声も聞かれる。
4. 現1年生は、オンライン講義が中心であり、サークル活動も十分には行えないことが分かって大学に入学しているので、現2年生や3年生とは傾向が違いかもしれない。

	学年別			
	21全国	21実数	21構成比	20構成比
1年	26.1	103	26.0	27.5
2年	26.1	89	22.5	23.5
3年	22.5	85	21.5	20.0
4年以上	25.3	119	30.1	29.0
総計	100.0	396	100.0	100.0

Q.学生生活は充実しているか？

	全国	17年	18年	19年	20年	21年
充実している	27.0	41.6	41.9	38.0	32.3	27.3
まあ充実している	51.6	50.0	46.1	51.5	46.2	48.7
充実計	78.6	91.6	88.0	89.5	78.5	76.0
あまりしていない	17.1	5.7	10.1	7.8	16.3	19.4
していない	4.3	0.9	2.0	2.7	5.3	4.5
していない計	21.4	6.6	12.1	10.5	21.6	23.9
無回答		1.8				

第57回 学生生活実態調査から

(2) 奨学金の受給について

1. 奨学金の受給者は増えていない。全国的にも奨学金に頼らない学生が増えている。
2. 20年4月から対象が拡大した「給付型」の利用者が増えている。
3. 奨学金は返済の不安が影響して減少傾向にあるが、その分をアルバイト収入や仕送りに頼っている。
4. 生活困窮学生がどうしてもクローズアップされがちだが、学生全員が生活が苦しいわけではない。
5. サークルの遠征が減った、友人との会食や遊戯が減った、帰省の回数が減ったことなどで、収入が減っても支出も減っているので生活実感に極端な変化はないのかもしれない。
6. 多くはないかもしれないが、札幌に住居を借りずに札幌圏外の実家でリモート授業を受けていて、必要な時だけ友人宅やホテルに泊まる学生もいるようなので、キャンパスライフを経験しないで卒業する学生もいるかもしれない。

	全国	17年	18年	19年	20年	21年	1年	2年	3年	4年
奨学金を受給している	30.3	26.3	25.7	32.5	25.7	25.0	20.4	25.8	32.9	22.7
日本学生支援機構の貸与型奨学金	21.3	21.0	20.9	28.8	19.3	17.9	11.7	18.0	22.4	20.2
日本学生支援機構の給付型奨学金	6.9		1.4	0.7	4.4	6.8	5.8	12.4	7.1	3.4
日本学生支援機構以外の貸与型奨学金	1.1	2.4	1.4	1.0	0.2	0.8	1.0		2.4	
大学や財団などの給付型奨学金	4.0	3.6	3.9	3.1	3.1	2.3	2.9	2.2	3.5	0.8
その他	0.4	0.3			0.7					
無回答	1.2	0.3	0.3	1.0	0.7	0.8	1.0	1.1	1.2	
受給していない	69.7	73.1	74.3	67.5	74.3	75.0	79.6	74.2	67.1	77.3

第57回 学生生活実態調査から

(3) 日常生活で気にかかっていること

1. 1年生2年生は、授業・レポート等勉学上の悩みだったり、サークル等の活動が十分にできないことで、対人関係を気にかけている傾向が表れている。
2. 意外と「時間が足りない」という回答も高い。課題が多くなっているようで、オンラインと対面授業のハイブリッド授業だと移動時間などもあって、時間が足りないと感じるのかもしれない。
 (オンライン授業になったら出席率が格段に上がったという話は多く聞く)
 北大生は、塾講師や家庭教師のアルバイトをしている学生は多いが、夜間の飲食店のアルバイトは蔓延防止法でなくなっているため、アルバイトへの関心も高い傾向にある。(選り好みもありますが)

	全国	21年	1年	2年	3年	4年
生活費やお金のこと	40.0	37.1	35.0	34.8	48.2	32.8
授業・レポート等勉学上のこと	47.2	52.5	63.1	60.7	47.1	41.2
生きがいなどが見つからないこと	22.5	25.3	31.1	28.1	22.4	20.2
専攻分野や進路のこと	27.8	36.4	39.8	36.0	35.3	34.5
就職のこと	42.7	38.1	22.3	31.5	61.2	40.3
対人関係がうまくいかないこと	17.2	22.5	33.0	34.8	17.6	7.6
恋愛のこと	20.4	24.5	33.0	27.0	17.6	20.2
自分の性格や能力のこと	25.5	30.6	35.0	28.1	30.6	28.6
住居や生活の雑事	7.1	13.1	13.6	16.9	15.3	8.4
時間が足りないこと	26.9	30.8	31.1	33.7	34.1	26.1
アルバイトのこと	18.6	22.0	35.0	27.0	16.5	10.9
政治や社会の動き	6.1	8.3	12.6	9.0	8.2	4.2
サークル等の活動のこと	12.3	15.9	24.3	22.5	11.8	6.7
心身の不調・病気など健康のこと	11.0	15.9	11.7	12.4	23.5	16.8
家族のこと	8.5	10.6	10.7	15.7	8.2	8.4
新型コロナウイルスに関わること	11.3	14.1	10.7	20.2	12.9	13.4
その他	0.5	0.3		1.1		
特になし	7.9	8.6	8.7	5.6	8.2	10.9

第57回 学生生活実態調査から

(4) 北大に入学して良かったこと、困ったこと、悩んだこと

- 文科系 2年 女性 自宅外レベルの高い先生からの授業が受けられることがよかった。しかし、オンラインのため質が落ちてしまう点にこまる。緊急事態宣言などで学生はすぐに大学構内立ち入り禁止になったりサークル活動もできなくなるが、一般人の憩いの場としての大学であり続けるため一般人の立ち入りは特に禁止されていない。学費を払う私たちが大学に通えずサークルもできず、オンラインのため教員や学生との対談による勉強もできないのに、お金を払っていない一般人が自由に大学を使えることに納得がいかない。授業料を返すまたは減らす措置を検討してほしいが、大学側は否定したままである。(文系2年女性)
- 興味のあることを学べる環境が充実していて、また様々な人と出会えるため大学に入学してよかったと思っています。ただ要領よく課題や家事などをこなすことが難しく、研究室生活が始まって時間が足りないことに悩んでいます。今後、大学院へ進学し就活も始めるとさらに忙しくなるため、体調を崩さないか不安です。(理工系4年女性)
- 先生によって授業のタイプが完全に異なるのが困った。オンライン授業かつ教材をMoodleに残してくれる人もいれば、何も残さない人もいたり、オンデマンドで手書きの資料だけをあげる人がいたり、など。(理工系1年男性)
- 就職のために大学に来たわけではないが結局大学の後に待っているのは就職だということをあまり考えていなかった。学部レベルだと就業に役立つ何かが身につくわけでもなかったし、やりたいこともできることもなく夢さえない、生きてる意味が見いだせない。(文系4年女性)
- 友人との繋がりが極端に薄くなった。オンライン講義に慣れすぎて、対面講義を避けるようになってしまった。卒業に必要な単位は足りてるはずだが、責任を持って確認してくれる人がいない(確か大学職員はやってくれないはず)。(文系4年男性)

大学生協の問題意識は、学生にとっての「3つの危機」

暮らしの危機

アルバイト収入は厳しい状況が続くも、多様化している！

- ✓ 0円～3万円未満が増えている。
 - ✓ 一方で、2年生は4万円～7万円の層もいる
 - ✓ シフト減、解雇、アルバイト先が見つからないの声は多く、数字にも表れている
- } 多様化

学びの危機

オンライン講義は評価されているが、対面講義が切実に求められている！

- ✓ オンライン講義は「いつでも・どこでも・好きな時間に」学べることを半数以上の学生がメリットに感じている
- ✓ 友達と直接会える喜び、質問のしやすさ、理解度の点で対面講義は求められている

つながりの危機

コミュニティの危機からつながりの危機へ

- ✓ 友人が5人未満は依然として1,2年生で3人に1人
- ✓ 不安に思っていることからしても、孤独感や自分の居場所がないと感じる学生が多い
- ✓ コミュニティ形成の段階以前に、人と人とがそもそもつながれていない！

学生総合共済

新型コロナウイルス感染症での給付実績（北大分）

2020年1月～2021年12月までの受付分

67件 ▶ 5,789,000円

申請済み、未給付者3名

- 全国では、累計5,786件、4億1,302万円の給付実績となりました。
- 全国では、2021年10月以降に父母・扶養者死亡の給付が増加傾向。
- 北大生協では、罹患者で給付申請していない加入者が潜在的にいると思われる機会をとらえて、申請の呼びかけを行っています。
- 後遺症のつらさを訴える声、宿泊施設や自宅療養では外出禁止が精神的にきつかったという声がありました。

入院または自宅療養

日額 **10,000円**

医師の指示に基づき臨時宿泊施設（ホテル等）または自宅において入院と同等の療養をする場合も含まれます。



通院

日額 **2,000円**

治療のために通院した場合に保障します。



学業継続

500万円

罹患された扶養者が亡くなった場合、学業継続支援特約の事故死亡を適用します。



※2021年12月1日時点において、新型コロナウイルス感染症を「不慮の事故とみなす感染症」として取り扱っておりますが、今後、感染症法上の位置付けの見直しがされた場合は取扱いが変更となることがございます。

学生総合共済

コロナ禍と「こころの早期対応保障」

- 北大在校生からも、コロナ禍で構内立入禁止やオンライン講義による対人コミュニケーションの希薄な状況が顕著になって、相談する相手がいなかったり、思うような就活ができないなどの理由で変調を訴える声が寄せられています。
- まじめな学生ほど指示に従順で、ひとりでは気分転換の方法がわからず孤立化を強めているようです。
- 大学生協の「学生総合共済」は、「こころの早期対応保障」として精神疾患の診療を受けたとき、共済期間（1年）につき1回10,000円の給付をしています。

●『こころの早期対応保障』給付件数比較（全国の状況）

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
2019	5	52	81	58	55	53	70	45
2020	114	167	127	107	61	80	102	102
2021	189	323	227	166	146	128	111	173

◆生活が変わって心身の疲労が出てくる5月・6月の給付件数が多くなっています。

<注>『こころの早期対応保障』は2019年から新規に設定した保障ですので、年々加入者が増加しています。

大学生協の問題意識は、生協にとっての「3つの難局」

経営の難局

リアル店舗が営業できない状況が続く
コミュニティの喪失が大学生協事業の悪化に直結

- ✓ 大学構内への入場制限が続いている(大学独自の規制、まじめな学生ほどルールを守る)
- ✓ 2021年8月時点の全国会員生協の累計は経常剰余21.1億と前年比では回復したものの、2019年比で▲18.2億円と依然として厳しい状況にある

コミュニティ形成の難局

オンラインでの取り組みは前進したものの、人と人とのつながりづくりに課題は残る

- ✓ 新入生歓迎の取り組みを再開(前年+70大学生協)
- ✓ 新入学生委員の募集・総代選出に苦戦
- ✓ 経験が継承されない

生協組織の難局

活動のオンライン化で苦戦しつつも懸命に頑張っている！

- ✓ 1年生の生協学生委員は1,832名(前年比+76名)
- ✓ 一方で組織委員が“ゼロ”の学生委員会も。
- ✓ 生協職員と組織委員のコミュニケーションが再建のカギ

2022年度 北大生協の方針

●年間テーマ

北海道大学ならびに大学構成員（**学生・院生・教員・職員**）の皆さんとともに北大生協は「北大の中にある自分たちの生協」であるという価値を再確認できるように担っている福利厚生業務の役割を、着実に果たしていきます

●全体方針

1. 組合員の参加を強化し組織運営を強める
2. 大学の期待に応えられる組織体としてアピールしていく
3. 重点となる事業領域を定めて推進します
4. 生協職員の活力を再建の原動力とします
5. 組合員の暮らしの安全を守る

ご清聴ありがとうございました